

【開催日時・場所】

平成25年12月15日（日）午前10時00分～午前12時30分

消防本部4階会議室

【出席者】

（委員）50音順

飯島委員、稲垣委員、大塚委員、佐々木委員、清水委員、杉田委員、早山委員、高橋委員、武井委員、臺委員、藤本委員、三代川委員、茂呂委員

（市）

若林こども部長、井澤こども部次長

（事務局）

天野こども政策課長、小澤こども部主幹、安達こども政策課係長、西川こども政策課主査

石橋こども政策課主任主事、大竹こども政策課主任主事、山下こども政策課主任主事

金木こども政策課主事

【傍聴人数】

7人

【次第】

1. 開会

2. 議題

(1) 「子ども・子育て支援事業計画」の基本理念・基本視点・目標について（協議）

(2) 習志野市子どもの満足度調査について（協議）

(3) 習志野市子育て支援に関するニーズ調査に係る単純集計結果の概要について（報告）

3. その他

(1) 「習志野市こども園整備と既存市立幼稚園・保育所の再編計画 第2期計画(案)」パブリックコメントの実施結果について

(2) 次回会議日程及び議題等について

4. 閉会

【配付資料】

資料1-1 「習志野市子ども・子育て支援事業計画」の基本理念・基本視点・目標について

資料1-2 【参考】「習志野市子ども・子育て支援事業計画」の体系と「習志野市次世代育成支援対策行動計画（後期）」における事業について

資料2-1 習志野市子どもの満足度調査の概要について

資料2-2 習志野市子どもの満足度調査 目的とねらいについて（テーマ別）（案）

資料2-3 習志野市子どもの満足度調査【案】（小学生用）

資料2-4 習志野市子どもの満足度調査【案】（中高生用）

資料2-5 習志野市子どもの満足度調査スケジュール

資料2-6 習志野市子どもの満足度調査票（案）に対する意見について

資料2-7 【参考】出典：平成24年度第3回次世代育成支援協議会

(H25. 3. 18開催) 資料

【当日配布資料】

資料1-3 「子ども・子育て支援事業計画」の基本理念・基本視点等の策定に係る留意点について

資料2-8 習志野市子どもの満足度調査 分析計画

資料3 習志野市子育て支援に関するニーズ調査集計結果概要

資料4 「習志野市こども園整備と既存市立幼稚園・保育所の再編計画 第2期計画（案）」
パブリックコメント実施結果（概要）

【開会】

【議題】

(1) 「子ども・子育て支援事業計画」の基本理念・基本視点・目標について（協議）

<事務局>

（資料1-1、1-3に基づいて説明）

<会長>

只今御説明いただいたように、本日は、新しい計画の基本的な柱となる理念・視点・目標について、これまでの議論を踏まえ御意見の集約をさせていただきたい。

<A委員>

細かい部分ではあるが、2点申し上げたい。1点目は、資料1-1の2ページの基本理念の説明中の「兄弟姉妹が減少している」という表現についてである。子どもの数が減少していることは確かで、一般的に一人っ子が増えたということが言われているが、統計的には子どもを持たない世帯と結婚しない世帯が増えただけで、兄弟姉妹や一人っ子の数は変わっていないはずである。兄弟姉妹が減少していると明確に表現して良いものかと思う。2点目は、資料1-1の7ページの家庭力の部分の目標についてである。主語が何であるか分かりづらく、日本語として違和感があると思う。

<会長>

1点目については、核家族化して半世紀近くが経っているのに、いまだ同じ表現が繰り返されており、また子どもの数が減ったということも1つ前の時代のことである。今は単家族化、シングル家族とも言われるように、未婚・非婚の数が増加しているのであって、結婚している家庭の中での子どもの数はそれほど減っていないというのが事実だと思う。現状に合わせて丁寧に精査する必要があるかと思う。2点目については、家族が家庭という場所で力を発揮することで子どもたちが安全・安心となり、家族が幸せになるということを目指しているのだと思うが、文章としての落ち着きが足りないかと思う。すぐここで文章を変更することは難しいので、事務局は宿題として検討していただきたい。

<会長>

資料1-1の3ページの説明について、「子どもの利益」という文言があるが、「最善の」が省略されてしまっている。「最善の」があるのとないのとでは全く意味が違うので、修正をお願いしたい。

<B委員>

資料1-1の7ページの方針の3に「子どもが健康で安全に暮らせる環境の充実」とあるが、理念は長くできないが、子どもが育つ上で一番大切なのは、安全で安心に暮らせることであると思う。安心して暮らせるまちとは何かということが、どこかに入っているといいと思う。具体的には、小児科をはじめとして医療の問題も重要であるし、前回の会議で議論した学区もそうだが、

学区の中で実際に子どもが歩くルートをたどると、はたして安全なのかと思うこともある。あくまでも前提として子どもの安全がどこかに入るといいと思う。小学校より上の子では、いじめや自殺の問題が出てくるが、そういったことを考える上でも、子どもの命の安全を確保しなければならないというのがどこかに欲しい。

<会長>

基本理念の説明の中に書き込んでも良いかと思う。視点や目標を短い表現でインパクトの強いものにしようと思うと、大切なものが見えなくなることがあるが、基本理念の説明の中には書き込めるかと思う。

<副会長>

基本視点の3点については、これらが相互に絡んで推進されることで、より良いまちにつながっていくのではないかと思うので、事務局はそういう説明をしていってもらいたい。

<会長>

基本視点が3つあるというのと、個々に分散して考えがちだが、これらは相互に関連するものであるから、事務局はそのことを概念図のようなかたちで示していくと良いと思う。

<C委員>

習志野市次世代育成支援協議会的时候には、安全・安心というキーワードが大前提である中で施策体系が枝分かれしていたと思う。今回は、安全・安心というものが理念の中に非常に弱いと感じた。新しい形になって進化したのか退化したのかは分からないが、安全・安心が前面に出てくる理念があつての施策・計画ではないか。

<会長>

今後、方針や施策内容の検討の際に施策の中に落とし込んでいく方法もあるかと思うが、一番大切なことなので、言葉にして確認しながら補完的な作業をすることは大事なことだと思う。

<D委員>

子どもたちが大きくなる間に、元気に育っていくことが大事なので、環境として安全・安心というのは大前提だと感じた。

<A委員>

安全・安心について、安全というのは通学路等 物理的な面で考えられるが、安心となるととても広い概念になると思う。今おっしゃっている安心とはどういう内容であるかを共有したい。

<C委員>

安全・安心について、通学区域や通学路が安全であることというのが分かりやすいかと思うが、これまでの習志野市次世代育成支援協議会でそのような安全が安心につながるということを議論してきた。通学区域だけでなく、子ども目線に立ったときに防犯や通学路の安全性が安心につながるという議論をしてきたように記憶している。

<A委員>

ここでは保護者が子育てを安心してできるということを書いており、とても広い概念の「安心」という表現である。安全から派生する安心だけではないものもあるかと思ったので、確認させていただいた。

<C委員>

子どもが事故や事件に巻き込まれないということも安心につながる。次の安心へのステップアップなのかと思った。

<副会長>

安全と安心を基盤にしたまちづくりに関する調査に関わっていたので参考までにお伝えしたい。安全・安心については物理的な整備は欠かせないが、一方で人と人とのつながりを重要視する「ソーシャル・キャピタル」が非常に着目されている。子どもが大人に対し信頼がおけるか、何かあったときにつながり合えるかなど、人という要素が入って安全が守られ、安心にもつながるといふ考え方が着目されている。

<会長>

安全に関しては、人や環境、情報等いろいろな要因による安全があるかと思う。また、周りの大人が配慮することと子ども自身が判断する力をつけていくことで更に安全性が高まるとも思う。子どもたちにとっては、相談できる大人がいることや周りの大人たちから守られることで信頼を寄せ、安心を感じるものだと思うが、その安心感がまた子ども自身の自己肯定感に関わることもあるかと思う。広い視野で、細やかに安全・安心を意識しながら議論を進めていかなければならないということかと思う。基本視点の互換性、相関性ということを先ほど申し上げたが、1つ1つの施策を見るときに、施策そのものだけをみるのではなく、家庭や地域にも目を向け、どこに優先順位を置くのか、安全・安心両面からの配慮はあるのか、その都度知恵を寄せ合って丁寧に考えていかなければならない。

<会長>

事務局の説明の中で、ボランティアを民間団体に置き換えることに違和感を感じる。ボランティアは1人でも成立するので、団体という表現でよいのか、適切な表現を検討していきたい。

(2) 習志野市子どもの満足度調査について（協議）

<事務局>

（資料2-1、2-2に基づいて説明）

<副会長>

（資料2-8に基づいて説明）

今御説明があった資料2-2の7項目はこれまで検討したことに関わるものに厳選している。計画との連動性を考えながら、項目の精査をした。一般的に計画の基礎資料として調査を実施して終わりということがありがちだが、実態を把握したら次にどう生かすかが肝になるため、分析計画として資料を作成した。

まず、調査をしたら単純集計をするが、今回は文部科学省や厚生労働省、人口規模が似ている他の自治体の調査を基本とし、中身を整理することで比較することが可能になるので、そういった観点から集計を行いたい。また、計画でうたっている自律力の部分を主軸としながら、施策に活かしていく観点を盛り込みたいと考えている。主要な項目は、小学生用では資料2-3の4ページの間8の愛着度、6ページの間13の住み続けたい意向、9ページの間29から間32の自尊感情として、他の項目との関連を見ることで、どこに施策として介入するか、明確にするために分析を進めていただきたい。愛着度については、居心地の良さや地域への参画に影響を与えているという過去の研究があったため、このような観点からの分析の提案である。さらに、自尊感情の質問においては、回答を得点化しながら、地域活動の経験、メディアとの関わり、将来について、睡眠時間・食事等の生活習慣との兼ね合い、自分自身についてどういった関わりがあるのかなどの観点を軸にししながら、分析を進めていきたい。市の施策として介入可能なものでないと、

絵に描いた餅になってしまうので、具体的に何かできるということを観点においた分析計画となっている。あくまで御提案なので、御意見を頂戴したい。

<会長>

この調査は、次世代育成支援対策行動計画を審議する習志野市次世代育成支援協議会からの引き継ぎ事項でもあり、主体である子どもたちの意見を反映していこうとするものである。一般的に市町村の計画策定時には調査をして計画を立てているものが多いが、調査結果との関連性が分からない計画がかなりある。今御指摘のあったように、調査をすることで、どう反映するのか、視点を持ちながら考えていきたいということは大切なことだと思う。また、先ほどの議題1の議論において、目標をどう具体化するか議論をしたが、その出発点がこの調査結果になる。この結果によって、これまでの習志野市の展開してきた施策や市民がどんな感覚を持っているのかを明らかにすることによってこれまでの達成度と課題が明らかになると思う。達成度が高い施策・事業は維持するか、促進するか、また、課題は解決するという視点で今後の計画を立てていくことが必要になってくると思う。この調査は、これまでの施策の評価をすることにもなり、御指摘のように、これを踏まえて計画を立てていくことが大切になる。一方でオールマイティな調査はないので、全てを聴こうとすると、膨大な調査をしなければならない。しかし、小学校の子どもがどの程度の集中力を持って答えてくれるかという限界があることを考えなければならない。オールマイティな調査を行うことは、無理な計画を立てることになってしまうので、子どもたちが回答可能であり、かつ焦点を絞って調査票を作らなければならない。そのような視点を踏まえながら、資料2-8のように組み合わせることで明らかになることもあるが、調査票1つ1つだけでなく、全体のバランスを見ていただいて、聴き方に過不足がないか、気が付いたところを御指摘いただきたい。

<A委員>

昨年のプレ調査でインタビュー調査に関わったのだが、小学校の子どもにとって習志野市と言われても自分の地域でしかなく、習志野市についてと言われても津田沼に住んでいる子どもは津田沼のことになってしまうので、資料2-3の4ページの間7の「習志野市が…」という設問は趣旨と異なるのではないか。ちなみに問8では「自分の住んでいるまち」とあり、そうなるとその子どもが住んでいる地域になるのだが、その地域にある施設等が違うので、地域ごとに集計し、地域に何が必要か細やかに対応していくのかお伺いしたい。

<事務局>

御指摘のとおりで、小学5年生はやはり考えられる範囲が自分の地域で回答していた。全数で調査を実施し、お住まいの地域も伺うので、そういう意味ではそれぞれの環境の中でどういった傾向があるのか見えてくると考える。

<会長>

インタビュー調査は質的なものであり、あるところに焦点を当ててインタビューを行い、インタビューで得た仮説を持って全体のアンケート調査からどんな結果が出てくるのかということ調べるもので、その視点は分析計画の中で従前のインタビュー調査でこういった傾向が見られているので分析のときに注意して分析をしていくという形で良いかと思う。また、回答から子どもたちの地域観も分かる。年齢によって生活圏も広がり、地域性も広がっていくため、そういう意味では小さな子どもたちに展開する施策と、成長した子どもたちに展開する施策とで、生活圏域を設定する際の資料にもなるため、年齢別のクロス集計も必要だと思う。

<E 委員>

丸を1つつけてくださいと記載されている質問と、複数か1つなのか分からないところがある。回答が1つなのか複数なのかそれぞれ明示した方が良いと思う。また、資料2-3の5ページの問11で番号の振り間違いがあるので見直していただきたい。

<会長>

再度調査票の精査をしていきたい。

<F 委員>

調査票について、子どもが分からないと親に聴いて回答を作るということがあるかと思う。一番怖いのは郵送という形である。この趣旨は子ども本来の考えをくみとることだと思うが、どうしても親が口を出すこともあるかと思う。子ども自身が理解できず空欄で回答を出せばいいが、親は質問されると書いてしまうこともあるかと思う。それをどうするか。中高生は心配ないと思うが、そこを配慮していただきたい。

<事務局>

今回の調査は全数にこだわらせていただきたい。例えば、市内の学校だけを対象として小学校を経由すると、市外の小学校に通う子どもたちや個別に支援を要する子どもたちに行き渡らなかったり、諸々の事情で学校を辞めた子どもたちに行き渡らなかったりしてしまう。こういった子どもたちにも意見を聴きたいことから、郵送調査にさせていただきたい。御指摘のあった内容については保護者宛の通知を同封して対応したい。

<会長>

対面調査は、調査員の力量で内容が変わってくるので難しい。子どもの調査なので、「分からない」という項目を入れることも必要かもしれないが、分からないのか、答える意思がないのか、調査では大切なことなのでどう読み解くのか工夫をしていきたい。

<G 委員>

職場体験の中で中学生で将来何になりたいか分からない子がいた。資料2-3の7ページの将来の家庭生活の結婚や子どもについて、理解できるのか。何人兄弟だったら良いかなど自分の体験に基づくことであれば答えやすいのではないかと思う。自分の将来について具体的にまだあまり考えていない子どもも多いと思う。何を求めて聴くのか疑問に思った。

<会長>

このテーマの質問では、将来像を持っていないことを確認するためにも必要であると思う。御指摘のあったように子どもたちへの聴き方で小学校に議論が集中しているが、その先に中高生用があって、同じ設問でも聴き方が変わっている。御指摘の部分が小学生と中高生と比較すると何歳くらいで家庭に対して具体的なイメージを持てるのか分かってくるので、両方で聴いてみるのは良いのかなと思う。ただ、聴き方で同じような文章になっているので、もう少し、聴き方を変えるなどの工夫をしていきたい。例えば家庭生活についての質問は小学校の子どもたちにどう理解になるのか、聴き方で変わってくるので、子どもたちにとって分かり易いようにしながら、ある程度は両方の調査票の継続性もあった方がよいかと思う。

<E 委員>

高齢者の調査も高齢者が分からない質問がある。対象となる方の何人かに前もって聴くことも必要かと思う。また、調査の対象は小学5年生、中学2年生、高校2年生という層で良いのか。

<副会長>

この調査票がこれで良いか学校等に確認する必要があるかと思う。対象者については、小学1年生から高校3年生までとれば理想的だが、費用の問題等あったときにどこに代表性があるかを考えた結果だと思う。一般的に回答ができる年齢というのは小学生の低学年は難しく、小学6年生、中学3年生、高校3年生は進路の選択時期になるので、回答が得られにくいだろうということが考えられる。このため、一般的な調査では、小学5年生、中学2年生、高校2年生が代表として選ばれるパターンが多いことから、決定したものと思われる。その中で、何人という抽出の仕方もあるが、全数が最も信頼性が高い。また、小学1年生から高校3年生まで各学年から同じ数を抽出するという方法もあるが、年齢のばらつきが多いと回答の信頼性が低くなってしまいますので、ある程度層を決めて抽出するメリットで考えると、信頼性の高い回答を得やすいやり方だと考えている。

<会長>

個人的な意見としては、年齢の低い子でも聴き方によっては調査が可能であると思うので、可能であれば低学年にも聴いてほしいと思う。

<D委員>

学校の最高学年になると、ものの見方が変わってくる。進路や進学で精神的にも不安定なことがあるかもしれないが、将来を考えざるを得ない環境なので、6年生の考え方を聴いてみたい。どう年齢の設定をするのかよく考えていただきたい。

<副会長>

実務的なところでは、調査時期が1月や2月なので最高学年は外しているというのが正直なところで、これまでの議論の中で決してこの学年がベストということではなく、便宜的な側面があるかと思う。

<事務局>

平成17年度からの次世代育成支援対策行動計画（前期計画）を作るにあたって、子どもたちの満足度調査をしている。この時の対象年齢が中学1、2年生と高校1、2年生だった。この結果との比較をしてみたかったので、中学2年生、高校2年生は実施させていただきたい。小学生についてはこの時点では実施していなかったが、他市や東京都が実施している調査票をみると、5年生が非常に多く、比較も含めると実施が2月を予定していることから、6年生が厳しいという想定もあり、5年生でプレ調査を実施した。他市等の比較もあるので5年生と御提案させていただいた。

<H委員>

誰にでも分かる形で聴くことが一番良い形になると思う。地域という問いで市全体という見方ができるかという問題があったが、大人の調査でも住んでいる地域を基本に回答すると思う。全部の学年での調査は困難なので、どんな目的で行うか、最終的にどう活かしたいかで考えると、分析計画に載っていたように、国や他の自治体との比較検討を考え、市として傾向を探りたいのであれば、どこかの学年に限定することもいいのかと思う。集計や人的な制約もあるので、限られた範囲で最善はどこか議論した結果であると思うので、小学5年生・中学2年生・高校2年生は国の調査や他の調査も対象者となっているので、良いかと思う。小学生は、4年生くらいからキャリア教育が始まるが、直接的に学ぶのは6年生である。どんな職業につきたいか学ぶのは6年生なので、6年生の方が良いが、国や他市との調査比較を考えると5年生で良いかと思う。別

の観点で、地域性について、分析計画の中にも地域的な意見を盛り込んでいただきたい。子どもの多い地区と少ない地区があるので並べて捉えるのは危険がある。

<I 委員>

健康についての質問だが、あえて歯の質問を2問入れた理由を教えてください。また、地域活動について、具体的な選択肢になっている。あまり周知されていない行事が入っており、例えば、青少年相談員をここ数年やらせていただいているが、毎年参加者は30人の定員が集まらない。そのような行事を聴くのはどうなのか。また、あづまこども会館について、地域性が違うところに聴いても知っている人が何人いるのか、調査する意味があるのか。もう少し大きな括りにした方が良いのではないか。

<会長>

まず、問35、問36については、基本属性の項目になる。全ての項目とクロスをするので、どの項目でも地域比較することになる。そうなったときに今の御指摘で、ある地域でしか使えない資源について全体に聴いてもクロス集計をかけるまでもなくなってしまう。回答の選択肢について再考が必要な個所があると思う。

<事務局>

調査票は関係各課とも調整を図っている。今年、習志野市は「健康なまちづくり条例」を制定し、この中で歯の健康について重要に考えている。成長において、歯の健康は家庭生活に反映しやすいという観点からあえてお聴きしたいという健康支援課の意図だと考える。

<会長>

虫歯が子どもたちの健康やいろいろなところで影響を及ぼしており、顎関節の発達や発達に影響を及ぼすこともある。この点は聴き方、項目を含めて全体のバランスを見て担当課と検討し精査していただきたい。

<事務局>

調査票の質問項目について少しお時間をいただき、今日御指摘いただいた内容については検討し変更してまいります。今後の策定の経過について御説明させていただきます。

<事務局>

調査票の確定に向けて、本日いただいた御意見をもとに修正を行っていきたい。また、本日の会議で頂戴できなかった御意見もあるかと思うので、会議終了後の追加の御意見等については、資料2-6を使って、12月20日（金）までに御意見を頂戴したい。

それでは、今後の調査票の修正や調査実施に関するスケジュール等について説明させていただきます。

資料2-5にスケジュールを記載しているが、現在、庁内組織である子ども・子育て支援事業計画作業部会に対して調査票に対する意見の照会を行っている。これは、習志野市次世代育成支援対策行動計画の評価及び子ども・子育て支援事業計画の策定へ活用するため、各事業担当課で活用の視点において確認し、意見提出をしてもらうことを目的に行っている。今後、本日の子ども・子育て会議で頂戴した御意見及び後日委員の皆さまから頂戴する追加意見並びに作業部会からの意見をとりまとめ、12月下旬には修正案を作成する予定である。そして、1月上旬に修正案に対する御意見を委員の皆さまに照会させていただき、そこで頂戴する御意見を踏まえ、次回1月24日の第5回子ども・子育て会議において調査票の確定をさせていただきたい。調査は2月に実施したいと考えており、また、調査結果の集計や分析は、3月に行う予定としている。以

上が、子どもの満足度調査に関する本日以降の策定スケジュールである。

(3) 習志野市子育て支援に関するニーズ調査に係る単純集計結果の概要について (報告)

<事務局>

(資料3に基づいて説明)

<副会長>

資料を見ていて、何歳の子を持つ人が回答したかによって、施策への反映の仕方が変わってくるので、回答してくださった方の子どもの年齢構成や就労状況などで分類して集計したものを示していただくと分かりやすいと思う。単純集計の段階ではこういう傾向があると言い切れない。就学前と就学後でも違うのでそこもわかるようになると良い。

<F委員>

横浜市の待機児童問題のように、待機児童がゼロになったと安心していても、また新たなニーズが出現して待機児童が発生し増加してしまうことがある。この調査から、実際に本当に預けるところがあれば就労したいという方まで考慮して深掘りをしていただき、いったんは待機児童がゼロになったものの、またすぐに待機児童が発生し増えてしまったということがないようにお願いしたい。

3. その他

(1) 「習志野市こども園整備と既存市立幼稚園・保育所の再編計画 第2期計画(案)」パブリックコメントの実施結果について

<事務局>

(資料4に基づいて説明)

<F委員>

現在待機児童が70名を超えているということでは、この計画に対しては、不本意ながらではあるが、そういう方々を受け入れていただきたい。本来であれば、県の旧保育所面積基準の質の高さを維持したままというのが希望である。足立区では公務員が3年間育児休業をとり、民間の人を優先することも行っている。現状を改善していただきたい。また、幼保園のところで、短時間と長時間の人数の区分けが見にくいので分けていただきたい。また第1期計画で心配なことがある。それは袖ヶ浦こども園の工事が遅れていることを聞いたことである。保護者も心配しているので、一度行政から説明していただきたい。それだけで違う。そして、菊田保育所についても、きちんと対応していただきたい。

<事務局>

袖ヶ浦こども園の工事については、施工業者から遅れているという話がある。現在、担当課が施工業者と連絡をとって調整しており、方向性が決まったら御連絡させていただきたい。

<D委員>

私立化というと、保育の質の低下と言われるが、保育の質とは何を指すのか。広さや人数なのか。人と人の関わりなのか。パブリックコメントの意見等を見ると私立になるとダメになるというイメージを持たせてしまうので、私立の人間としては心外な部分がある。どういう意味で保育の質の低下というのか分からない。

<事務局>

市としては私立化することで保育の質の低下があってはならないと考えている。保護者の意見では、職員の年齢や経験年数が低く、その原因については運営費が公と民とでは民の方が低いということを挙げ、こういったところが結果的に人件費に関わっているからではないか、保育の質の低下につながるのではないかと懸念されているようである。習志野市の基準を示し、そのための助成をし、市の配置基準でお願いをしていきたい。

<D 委員>

経験年数が長ければ良いのか、短ければ悪いのか。お金をかけていけば良いのか、かけていなければ悪いのか。それは違うということを確認していただきたい。

<会長>

この議論は、長くやっている民間の方が傷つくので、憂慮するところである。民間が入っているところに、規制緩和で従来児童福祉や児童教育の分野に実績のない株式会社等が入ってきたり、志はあるが基盤が十分でないNPOを主体にした団体が入ってくることへの危惧があることは分かるが、従前から運営されている私立の幼稚園や社会福祉法人の保育園まで十把一絡げに私立・民間として否定されるような文言になることはいろいろなところで注意していただきたい。

<J 委員>

保育の質の話であるが、行政側は、何人いるのか、何年の経験があるのか、これがなければ容認できないというような基準を持っているのだから、民間側もこうしたものを当然全てクリアしているはずである。そして、保護者側から考える保育の質という話をしたときに、何をもって質の低下としているのかが明らかでないまま、民営化すると質が悪くなるという話になってしまうが、行政側の言う保育の質は満たしているということを明確に文言として出してほしい。市の示す基準を忠実に守って運営すれば質は十分に守られると思う。また、民間が行う保育がそれ相応の力を発揮して住民の需要に対して満足のいく形で保育所を運営しているのだという表現は考えてあげるべきである。

<F 委員>

保育の質という言葉が独り歩きしてしまっている。保育の質という点で、公立保育所のいいところは、公立施設間の連携があるので何か問題があったときに全体にフィードバックされて、どこの保育所でもレベルアップが図られることである。私自身は、子どもを私立に預けたこともあり、良いところもたくさん知っている。その中で、私立化することでレベルアップの幅に各保育所にずれができることを保護者は危惧している。選択肢が広がる意味での私立化は良いが、何かあったときの横の連携やフィードバックがうまくいくのか心配している。

<会長>

法律や制度、保育士は国家資格になって倫理綱領も作られている。経営・運営によっても内容が変わってくることは思うが、公的サービスなので、個々の事業者だけではなく、全体としての第三者サービス評価も入ってきており、いろいろな形で保育の質を維持していくことが大切である。

(2) 次回会議日程及び議題等について

【次回会議】

議題 (予定)

- 教育・保育の量の見込みの分析内容の検討
- 教育・保育の確保方策の検討
- 習志野市子どもの満足度調査の内容の確定について